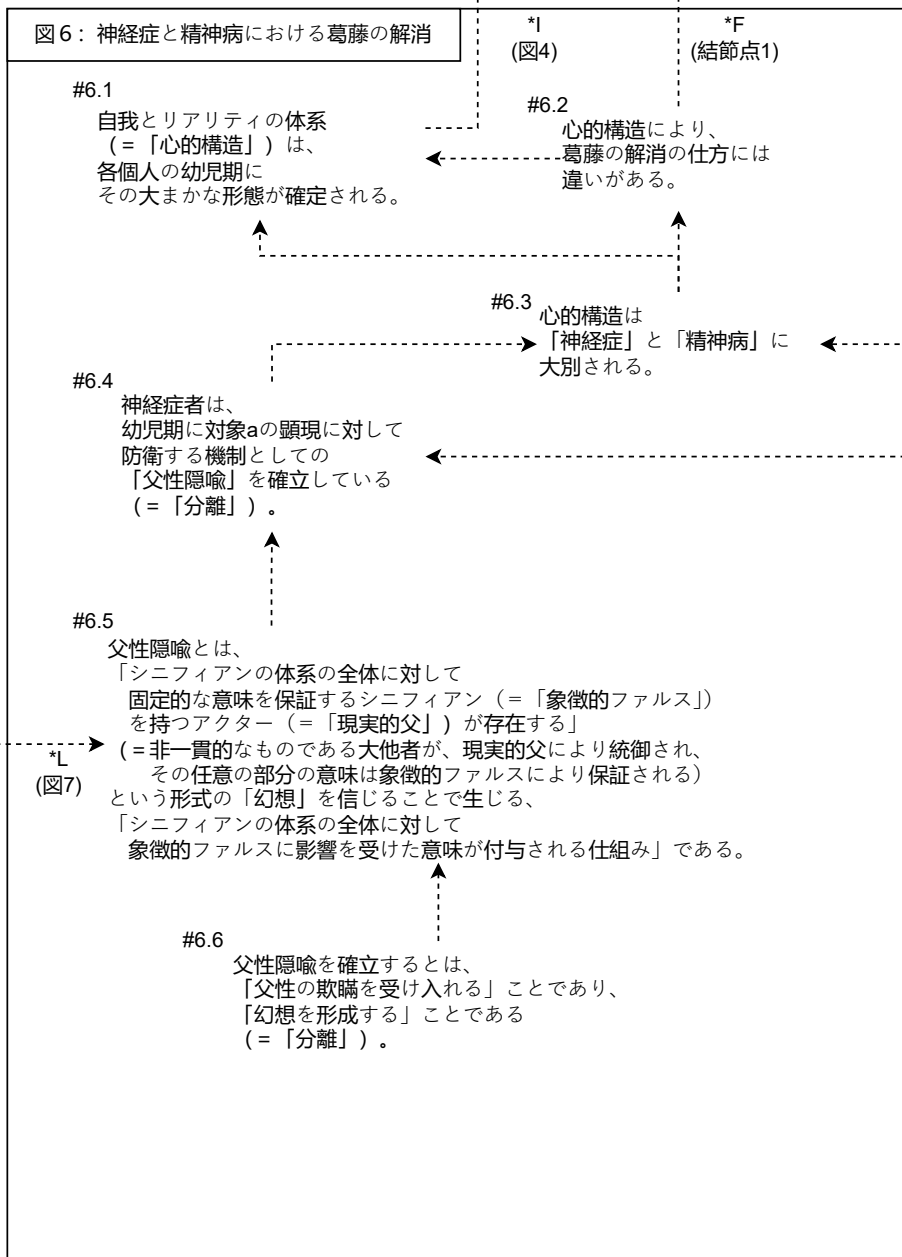


図6：神経症と精神病における葛藤の解消



#6.8 精神病患者は、  
幼児期に対象aの顕現に対して  
防衛しなければならない状況を  
経験しておらず、  
そのため父性隠喩を確立してもいない。

#6.7 神経症者は、  
父性隠喩を用いて対象aを隠喩化  
(=「抑圧」)することで、  
対象aの顕現に対して防衛する。

#6.9 精神病患者は、  
対象aを意識から排除する  
(=「否認」)  
(=「知ろうとしない」)  
ことで、  
対象aの顕現に対して防衛する。

#6.10  
修正の結果構築される  
自我とリアリティが、  
他の人間個体のそれからは  
整合性を保てない場合、  
そのような修正を行った人間個体は  
「病的」であるとされる。

#6.11 神経症者の「症状」は、  
反復強迫する対象aとなった出来事 (S1) を、  
「隠喩」的もしくは「文字」的あるいは「音素」的  
つながりのある「言葉」を経由する (S1→S2) ことで、  
間接的に解消して満足するものである (=「象徴的加工」)。

#6.12 精神病者の「症状」は、  
反復強迫する対象aとなった出来事 (S1) を、  
直接的・無媒介的に呼び起して解決することによって、  
解消して満足するものである。

#6.13 直接的・無媒介的に  
呼び起された出来事は、  
「パラノイア」の場合では、  
「妄想形成 (S1→S2)」  
によって解決される。

#6.14 直接的・無媒介的に  
呼び起された出来事は、  
「スキゾフレンニー」の場合では、  
シニフィアンの体系を用いずに  
そのまま身体で享楽を受け止める  
(=「S1の散乱状態」)。